

RHEL サブスクリプションの始め方

レッドハット株式会社
パートナーソリューションアーキテクト部
2022/6

はじめに

本書は、Red Hat Enterprise Linux に関するサブスクリプションの考え方についてパートナーの皆様にご理解いただくことを目的に作成しています。ノードのカウント方法など、判断に迷ったりするケースも多いかと思います。その『おおよその考え方の指針』として利用いただければと思います。

免責事項

この資料は2022年6月現在の情報を元に作成しています。出来る限り正確な情報となるように努めておりますが、皆様の個々のユースケースに対するサブスクリプションに対する『正解』を与えるものではありませんのであらかじめご承知おきください。契約書とこの資料に不整合がある場合は常に契約書が優先されます。

実際の案件では、どのユースケースに該当するかが判断が難しい場合もございます。具体的な案件にて必要なサブスクリプション数に関して不明な点は、各 Red Hat 担当営業までご確認いただきますようお願いいたします。

RHELのサブスクリプション提供形態

Red Hat Enterprise Linux (RHEL) のサブスクリプションは、大きくユースケース別に下記の 3種類が存在します。

各種類毎に、適用可能なユースケースやコンピューティングリソースに差異がございます。

Red Hat Enterprise Linux Server

RHELを一般的なサーバ用途で使用するためのサブスクリプションです。サポートされる構成のサーバコンピューティングのみがサポート対象となります。

Red Hat Enterprise Linux Workstation

RHELをパーソナルコンピューティング用途で使用するためのサブスクリプションです。通常、シングルユーザ向けにアプリケーションやサービスを実行することを主な目的としたもののみに対応し、サポートされるコンピューティング性能に制限があります。

Red Hat Enterprise Linux Server for HPC

クラスタで構成される高性能コンピューティング (「HPC」) 用のサブスクリプションで、特定のクラスタ構成のもののみがサポート対象となります。

Red Hat Enterprise Linux Serverサブスクリプション

Red Hat Enterprise Linux Serverサブスクリプションは展開先の環境(物理 or 仮想)に応じ購入サブスクリプションのカウント対象が異なります

展開先が物理環境(ベアメタルインストール)の場合、ホストのソケットペア毎の購入となります

- 例として、4ソケットサーバ 1台の場合は2本のサブスクリプションが必要です
- ソケットペアは複数システムにまたがって使用することはできません
例として、全サーバのCPUソケットが1ソケットの場合でも、1本のサブスクリプションで2台のRHELホストを賅うことはできず、サーバ毎にサブスクリプションが必要です

Red Hat Enterprise Linux Serverサブスクリプション

展開先が仮想環境の場合、サブスクリプションの購入方法を以下の 2種類より選択可能です

- 仮想インスタンス数ベースのサブスクリプション:
 - 2台の仮想インスタンス毎に1本のRHELサブスクリプションが必要です
 - それぞれの仮想インスタンスは同一のクラスタに存在する必要はなく、地理的に離れていてもかまいません。
- 仮想インスタンス数無制限のサブスクリプション (Virtual Datacenter):
 - ハイパーバイザーホストのソケットペア数に応じたサブスクリプション購入が必要ですが、RHEL仮想インスタンスを無制限にデプロイできます
 - ただし、サブスクリプションはハイパーバイザーのクラスタを超えて使用することはできません

環境にデプロイするRHEL仮想インスタンスの台数が多いほど Virtual Datacenterサブスクリプションの方が低コストとなるため、環境への搭載予定台数および今後の拡充予定を考慮のうえご検討ください
ご不明な場合、Red Hat担当者までご連絡ください

Red Hat Enterprise Linux Serverのサポート

Red Hat Enterprise Linux ServerサブスクリプションはRed Hatのサポート条件に応じStandardとPremiumの2種類に分かれ、それぞれ大まかには下記のサポートを提供します

- Premiumサポート
 - Extended Update Supportを同梱
 - 作業前に事前情報共有を行い初動を早くするProactiveサポート
 - 重要度の高い障害に対し24×7のサポートを提供します
※ 問題解決までの間、連絡可能なお客様側の連絡先をRed Hatに提供頂けることが前提
- Standardサポート
 - 障害の重要度を問わず、対応は平日の営業時間(09:00~18:00)のみとなります

対応時間などの詳細については[製品サポートのサービスレベルアグリーメント](#)をご確認ください

Red Hat Enterprise Linux Serverサブスクリプションの選択

- ❖ 展開先環境は物理環境である
 - サポートレベルに応じ、下記のいずれかをRHEL稼働ホストのソケットペア数分購入する
 - Red Hat Enterprise Linux Server, Premium (Physical or Virtual Nodes)または
 - Red Hat Enterprise Linux Server, Standard (Physical or Virtual Nodes)

- ❖ 展開先環境は仮想環境である
 - 仮想インスタンス2台毎にサブスクリプションを購入する(小規模環境かつRHELの増設予定がない)
 - サポートレベルに応じ、下記のいずれかをRHELの仮想インスタンス数に合わせ購入する
 - Red Hat Enterprise Linux Server, Premium (Physical or Virtual Nodes)または
 - Red Hat Enterprise Linux Server, Standard (Physical or Virtual Nodes)

 - 仮想インスタンス数は無制限でサブスクリプションを購入する(中～大規模環境)
 - サポートレベルに応じ、下記のいずれかをハイパーバイザーホストのソケットペア数分購入する
 - Red Hat Enterprise Linux for Virtual Datacenters, Premiumまたは
 - Red Hat Enterprise Linux for Virtual Datacenters, Standard

Red Hat Enterprise Linux Workstationサブスクリプション

Red Hat Enterprise Linux WorkstationサブスクリプションはRHELをパーソナルコンピューティング用途で使用するためのサブスクリプションです。以下の特徴・制約がございます。

- 通常、直接接続されたキーボードとディスプレイで作業する一人のユーザーのために、アプリケーションやサービスを実行することを主な目的としたもののみに対応します
 - マルチユーザ向けのサービス提供など、上記を外れるユースケースでは Red Hat Enterprise Linux Serverをご購入ください
- Red Hat Enterprise Linux Workstationサブスクリプションには、1台のRHEL Workstationシステムでのみ使用される1つのSmart Management Add-onが含まれます
この他のAdd-Onは購入することはできません
- 搭載可能な最大物理CPU数は2つ(2ソケット)までとなります。メモリ量に制約はありません

Red Hat Enterprise Linux Workstationサブスクリプションの選択

- RHEL Serverと同様、サポートレベル(StandardとPremium)によりサブスクリプションが分かれます
- RHEL Workstationサブスクリプションの購入はインストールしたシステム単位で行います
 - ただし仮想環境かつStandardサポートの場合は、1本あたり4台の仮想インスタンスで使用可能なサブスクリプションが選択可能です

RHEL Workstationサブスクリプション一覧

- **Red Hat Enterprise Linux Workstation, Premium**
 - Premiumサポートで、1本あたり1台の物理/仮想 RHEL Workstationが使用可能
- **Red Hat Enterprise Linux Workstation, Standard**
 - Standardサポートで、1本あたり1台の物理/仮想 RHEL Workstationが使用可能
- **Red Hat Enterprise Linux Workstation, Standard (Up to 4 Guests)**
 - Standardサポートで、1本あたり1台の物理 RHEL WorkstationとWorkstationの仮想化機能による仮想インスタンスを最大4台まで使用可能

Red Hat Enterprise Linux Server for HPCサブスクリプション

Red Hat Enterprise Linux Server for HPCサブスクリプションは以下の全ての条件を備えた構成のみがサポート対象となる、高性能コンピューティング (HPC)用途限定のサブスクリプションです。

- (a) クラスタはクラスタ内の個々のコンピュータノードに送られる数値計算分散タスクに使用される
- (b) クラスタは、複数組のデータについて数値計算作業を実行することで、特定のタスクで単一のエンティティまたはシステムとして機能する
 - データベース、Web アプリケーション、ロードバランシング、またはファイル サービングの各クラスタを稼働させるシステムは HPC ノードとみなされません
- (c) 管理ノードまたはヘッドノードの数がクラスタのノード総数の 4 分の 1 を超えない
- (d) クラスタ内の全てのコンピュータノードが同じ Red Hat Enterprise Linux 構成であること。

ご購入に当たっては構成の確認が必要となりますので、まずは Red Hat 担当者までお問合せください。

関連リソース

- Red Hat Enterprise Linuxサブスクリプションガイド

<https://www.redhat.com/ja/resources/red-hat-enterprise-linux-subscription-guide>

- Red Hat Enterprise Agreements and Product Appendices

<https://www.redhat.com/ja/about/agreements>

Thank you



[linkedin.com/company/red-hat](https://www.linkedin.com/company/red-hat)



[youtube.com/user/RedHatVideos](https://www.youtube.com/user/RedHatVideos)



[facebook.com/redhatinc](https://www.facebook.com/redhatinc)



twitter.com/RedHat